

第19回 浅井越～高松山～仏ヶ山～県道115

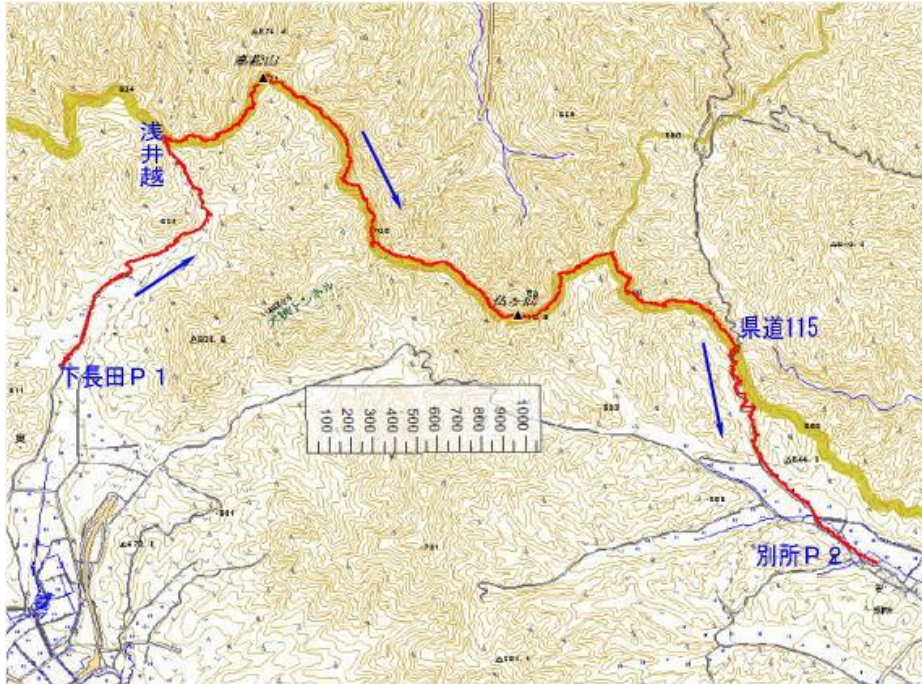
平成26年1月28日(火)曇

行程

下長田 8:55 - 浅井越 10:22 - 高松山 12:26 - 仏ヶ山 14:28 - 県道峠 15:53

隊員

船越 仁 角原 覚 赤木貴久子 角原鶴子 丹治千束 藤川豊子



第17回犬狭峠に記した通り、途中で下山することになった浅井越に向かって再度谷筋を登りました。実はその後(21日)にもリベンジを試みたのですが、又も新雪で諦めて次のスパンに転戦したので、本日が3度目の正直となったのです。

積雪は約1m。夜間の冷え込みが効いて楽勝と思いき

や、モナカ状態です。とはいえカンジキは必要ですがこれ迄になく歩き易く、前回下りに1時間30分要した県境線へ、登り1時間15分で着きました。

ここからが私達の本来の仕事になります。今日の中央分水嶺踏破距離はたったの4.2kmですが、県境到達と県境下山の2.8kmが加わり計8時間のアルバイトでした。これから3月に向けて県境は更に奥深く行っていきます。

ともかく雪の状態はまずまずのこの日、途中の高松山を筆頭に20以上のピークを越えて、三冠王の仏ヶ山743.5m(中央分水嶺、県境、1等三角点本点)の縦走を終えました。

ちなみにこの仏ヶ山は無雪期には南側の登山口から30分で登れる山なのです。



第20回 蛇ヶ峠～上蒜山～中蒜山～塩釜

平成26年1月31日(金)晴

行程

上蒜山スキー場 8:24 - 蛇ヶ峠 10:11 - H820m アイゼン装着 10:50 - 上蒜山三角点 12:49 - 上蒜山分岐昼食 13:03 - 中蒜山 15:02 - 下降地点 15:20 - 塩釜 17:04

隊員

船越 仁 角原 覚 赤木貴久子 角原鶴子



第16回の下りで2時間20分を要した蛇ヶ峠ですが、本日は1時間45分で到着しました。積雪は相変わらず約1mですが、モナカ状とはいえ表面がクラスト気味なので随分歩き易くなっています。

最初、緩斜面だった県境線は40分もすると急登になりました。高度820m地点でカンジキからアイゼンに履き替えてジグザグに登ります。高度を上げるにつれ、木立の間から白銀の大山が見え始めます。上

蒜山三角点峰から大山を眺望して小休止。ここまで5時間掛りました。一般冬道の、丁度倍の時間を要したことになります。

眼前に近付いた中蒜山へは一旦大きく下ります。このリッジ下りはいつもながら肝を冷やす難所が数ヶ所ありますが、天空歩きを楽しめる稜線です。右手の南斜面は全層の雪が落ちるべくは落ち、ササ原が剥き出しになっている箇所もあちこちにありました。我々が通るリッジの雪庇は何度も落ちて、その度に残る締まった雪稜が上へ上へとせり上がっています。

中蒜山に到着して上蒜山を振り返ると、下降して来た稜線が手に取るように分ります。本日の蒜山は私達の他には誰もいません。全山貸切りとは豪勢な気分です。雪稜を下蒜山方向に少し下ると下山分岐ですが、ある筈の標識は雪の下です。見当を付け、下山用に雪庇の一部を切り落として安全地帯まで一人ずつ間隔を空けて慎重に下りました。



第21回 犬狹峠～下蒜山～中蒜山分岐～塩釜

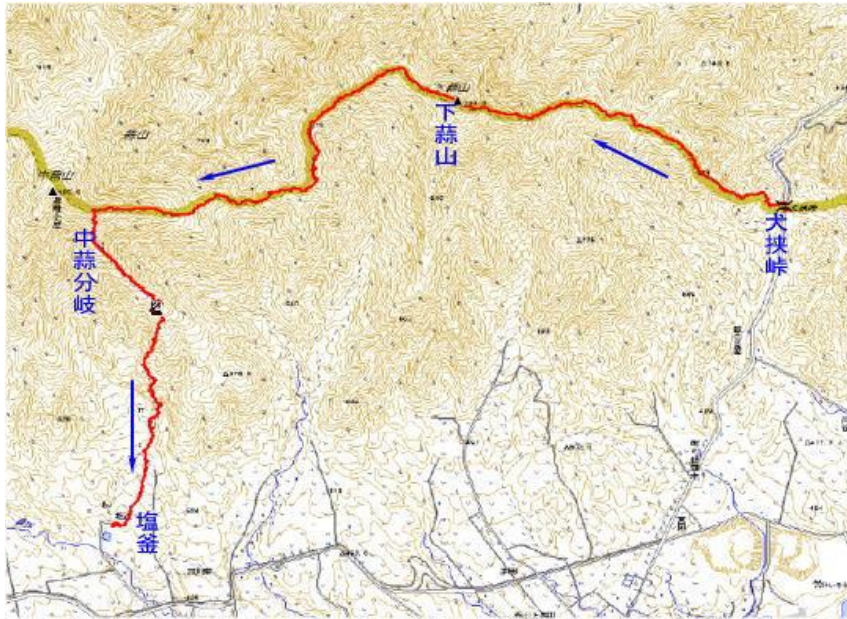
平成26年2月3日(月)曇

行程

犬狹峠 8:15－雲居平 9:26－9合目 10:32－下蒜山 10:57－フングリ峠 12:00－
中蒜山分岐 13:34－塩釜 15:05

隊員

船越 仁 角原 覚 角原鶴子



犬狹峠からは、やはり一般登山道ではなく県境尾根を登ります。20分程で登山道に合流しましたが、雪が融け、所々地肌が出ています。着脱が面倒なのでカンジキのまま、長くて辛い階段を高度150m程登ると樹林帯を抜け雲居平です。見渡す限り雪原の筈が、この時期には無残です。1月初旬の二度のドカ雪は斜面全層で落ちたのでしょう。高度800mに広がる

この雲居平も、前日の4月並の陽気で一気に雪が融けたようです。

しかしながら、ガスで霞んだ写真からでも分るように、9合目の肩に向かって1本の白い雪庇筋が残っているのが救いです。近付いてみると、半ば融けかかった雪庇には横にクラックが入っており、一部登山道がのぞいています。草付きではなく、岩のジグザグ登山道にしっかり結着しているのを確認し、雪庇の残骸路にカンジキのままキックステップして登り切りました。左手の雪崩落ちた草付きも、右の樹林帯のどちらも切り落ちた斜面なので、ここが最も安全なのです。最大60度の斜度があるこの雪壁はアイゼンで登る醍醐味があるのですが、これ迄に楽しく登れました。

頂上からの遠望は効かず、早々に中蒜山に向けて大きく下ります。フングリ峠辺りでポツポツ雨になって来ました。今日は非常に暖かかったので、脱いでいたヤッケを着込んでもうひと登りです。そして中蒜山分岐から3日前に作った自分達のトレースに沿って下山しました。



第22回 4等三角点浜子

平成26年2月7日（金）曇

行程

P2 蒜山吉田 9:11ーリボン点 10:45ー下山点峠 14:30ー除雪県道 15:55ーP1 鳥取県三朝町大谷 16:22

隊員

船越 仁 角原 覚 赤木貴久子 角原鶴子 丹治千束



一昨年12月に、広島鳥取岡山県境の三国山から始めた積雪期における中央分水嶺歩きも2シーズン目に入り、分水嶺の踏破距離が100kmを越える日に当たります。減ってしまった50cm積雪の上に新雪50cmが積ってくれ、嬉しい反面、カンジキ歩きには負担が掛ります。いつも通り、

先日下山した岡山県真庭市蒜山吉田から、県境下山目印に結んだリボン点に向かって再度同じ道筋を登ります。本日のセブンティズ5名は約100mずつの先頭交代を繰り返し、県境に到着しました。もう10時45分です。低山ながらもアップダウンの多い分水嶺を無理せずに、ゆっくりペースで東進します。気温は3℃を越えることなく、木々の幹に付いたままの雪が、まるで白樺林の中に居るような気分にさせてくれます。1時間程歩いた頃、明るい広場の大きな樹木の幹が床の間の磨き丸太の如く、光っているではありませんか。生々しい熊の爪痕です。周りには他に3本あり、爪痕の背丈が順に低くなっています。写真がお父さん熊の木で、次いでお母さん熊、子供達のでしょうか。冬眠前の昨秋に付けたのでしょう。月の輪熊の生息地としては集落から直線距離で1.5kmしか離れていません。11月末～翌年3月末は熊の冬眠期間と聞いていますが、生々しい爪痕におっかなびっくりです。これまでに熊棚は見たことがありますが、こんなに真新しい爪痕は初めてです。熊避けスプレーはどれほどの効果があるのだろうか、真剣に検討しなくてはならないと思います。

*所が本原稿をヤマケイに送った所、専門家の鑑定で熊ではなく、鹿の角剥ぎと判明しました。なので、未掲載となりました。

今日の分水嶺踏破はたったの2.4kmを4時間掛け、岡山県側からの県境へのアプローチと鳥取県三朝町大谷への下山を合わせて7時間30分のアルバイトでした。



第23回 東津黒（4等）～津黒（4等）

平成26年2月11日（水）曇

行程

浜子 8:43 - リボン点 10:18 - 東津黒 11:26 - 津黒 13:16 - 林道出合 14:33 - スキー場上部 16:22 - スキー上駐車場 16:40

隊員

船越 仁 角原 覚 赤木貴久子 角原鶴子 丹治千束 佐々木順栄 佐々木靖昌



浜子集落の最奥の民家、ここから歩き始める。峠のリボンに到着。前はここから三朝町に下った。登り始めた先頭はこれも今シーズン初参加のSSさんです。溜まっていたエネルギーが発散されることでしょう。今日は午後になっても1日マイナス気温です。樹氷は未だ成長していません。檜の枝打ちしていないのも樹氷

鑑賞には役立ちます。

林道出合にゆきんこ隊の赤リボンを付けました。そして、津黒高原スキー場へ向けて下山します。

長い、長い、遠かった～



第24回 津黒山台地～大谷峠

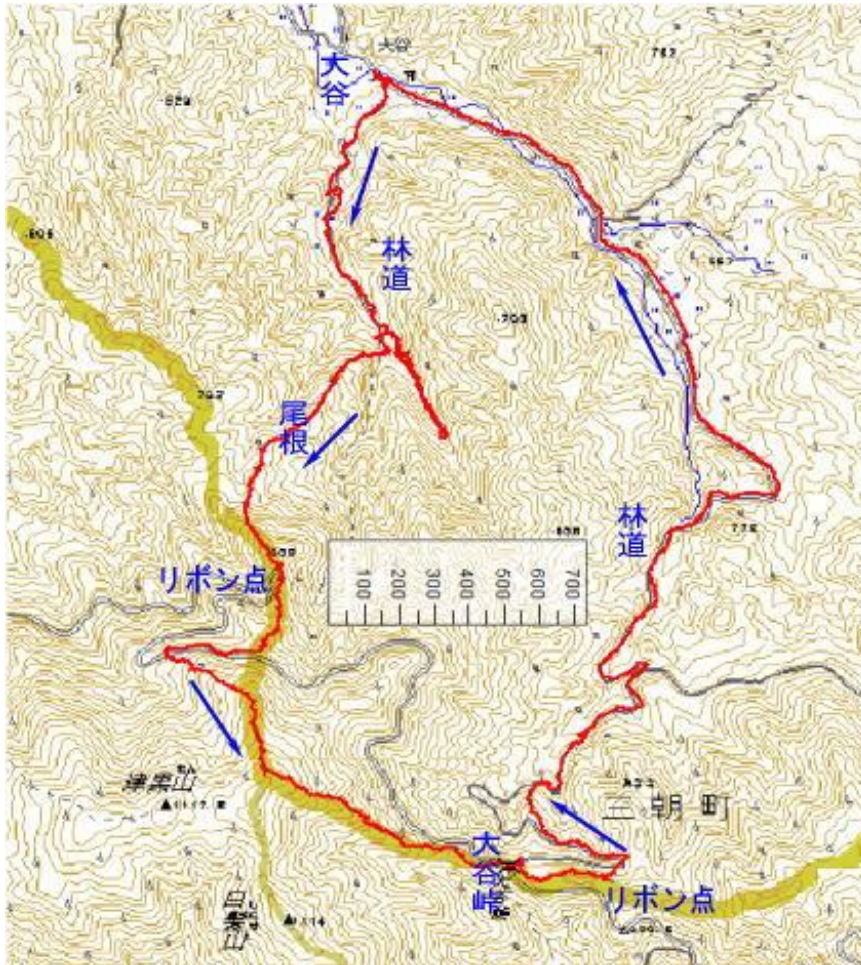
平成26年2月17日(水)曇

行程

大谷 8:50ーリボン点 12:06ー津黒山分岐 13:43ー大谷峠 14:19ーリボン点 14:40ー大谷 16:40

隊員

船越 仁 角原 覚 赤木貴久子 角原鶴子 丹治千東



津黒高原から人形峠までの約20kmは1000m超の分水嶺稜線が続く本格的な中国山地です。幾つかの小さな峠があるものの、冬の間は通行不能の秘境になります。頼りになるのは鳥取側も岡山側も同様に、最奥の民家です。居住されている民家までは道路が除雪されているからです。今日は除雪最奥地点の鳥取県三朝町大谷集落が起点になります。

歩き始めはツボ足でしたが、直ぐにカンジキを履くことになりました。谷沿いの林道を詰めますが埋まった林道は危険なため、予め想定していた尾根に取り

り付きました。それでも所要時間は想定外で、6日前に結んでおいた林道の県境リボン点に着いたときは既に12時10分でした。

ここから県境ラインを直登するにはロープでの安全確保が必要です。この雪壁に固執しないで、200m西の尾根に回り込み、今日の最高地点である津黒山台地1110mに到着しました。岡山県側に300m弱入り込むと津黒山頂上ですが、ホワイトアウト状態であることと経過時間を考慮し、頂上へは寄りません。密集した根曲り竹が雪の下に埋まっているこの雪原を、もったいなくも素通りです。そのまま県境を東進し、林道大谷峠に着きました。ここから林道を下るより、次回の為に更に東進しておきます。14時40分到着のコルを今日の終着点としました。そして長い林道を出発地点の大谷集落へ下りました。

今日は、たった1,8km(2時間30分)の分水嶺稜線の為に、登り2,8km(3時間20分)、下り4,3km(2時間)を要する効率の悪い山行となりました。それでも深雪の中を無事に下山出来たことに全員で感謝しました。